

令和3年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科：(英語)科目：(コミュニケーション英語Ⅰ) 対象：(第1学年1組～5組)

科目担当者：(1・2組E1:入川俊則(印) E2:富田昭博(印) E3:鈴木省三(印) E4:清水三重子(印))

(3・4組E1:入川俊則(印) E2:富田昭博(印) E3:鈴木省三(印) E4:清水三重子(印))(5組E1:入川俊則(印) E2:松村佳絵(印) E3:鈴木健司(印))

教科・科目の 指導目標	- 教科書で扱う基礎的な単語や熟語に繰り返し触れることにより、それらを自然に言葉にすることができるようになる。 - 教科書本文について、与えられた情報を基に大意を把握することができるようになる。 - 基礎的な英語を使い、自らを表現する活動に積極的に取り組むことができるようになる。
----------------	--

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	英語に対する苦手意識を克服できず、学習意欲や目的意識をもてない生徒が多い。そのため、語彙や文法、読解力において、基礎学力の不足した生徒が多い。 筆記試験が不得手である一方で、実際のコミュニケーション活動に対しては興味関心を持ち、熱心に取り組むとができる生徒も存在する。 ※本校では学力検査による入試を実施していないため、年度当初の授業中の生徒観察から判断した。	1 生徒のコミュニケーション活動を重視し、主体的に参加できる授業を展開する。 2 オーラルコミュニケーション等、自らを表現する活動を積極的に授業に取り入れ、英語の実践的なコミュニケーション能力を育成する。 3 教科書で扱う基本単語・熟語に繰り返し触れさせ、その定着を図る。	1 ペアワークやグループワーク等、種々の活動形態を取り入れ、生徒の言語活動を活性化し、主体性を引き出す。 2 生徒の「コミュニケーションを取ろうとする姿勢」を評価に反映させることにより、生徒の学習意欲を喚起する。 3 英単語・熟語の反復的な定着活動を行うとともに、定期的な単語テストを実施する。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			